



やまぎし み 山岸はる美 議員

議員 これまでも町では少子化対策に取り組んできたが、出生数は平成に入ってから2年の96人をピークに年々減少し続け、平成20年は26人という状況です。

問 少子化対策の成果は上がっているか
答 少子化対策の成果は、



町長 これまで「安心して子どもを生育てられるまち・くずまき」を基本理念とし「子育て支援計画」を策定し、



栗山自治会のニジマスつかみ取り大会ではしゃぐ子どもたち

- ① 安心して出産や育児ができる環境整備。
② 家庭における子育て支援の体制整備。
③ 子育て支援では、子どもの利益を最大限に尊重する。
④ 子育てを社会の問題としてとらえ、地域社会全体で支援する。
の4項目を中心として、子育て支援に取り組んできました。
しかし、依然として少子化の進行には歯止めがかからない状態で、平成17年4月から4年の間に子供を産み育てる世代である20歳代から40歳代までの人口は18・6割減少して非常に憂慮すべき状態

問 安全・安心なまちづくりを

- ① 山間地集落では、隣同士の声掛けで安否確認ができたり、人と人のつながりで集落の機能維持が支えられてきた。
しかし、過疎化が進み戸数が減少していく中で、町は、住民の安全・安心なまちづくりをどのように対処をしていくのか。
② 国道340号線の野中地区にある道路情報表示板は故障の繰り返しです。
特にも、冬場の温度表示が路面凍結の目安となり、安全走行に欠かせないことから、管理す

- ① 平成22年度に整備完了予定の地域情報基盤施設では、議会中継、防災情報、各種行政情報を速やかに正確に提供していくため映像や文字による放送を実施します。
町民の要望を取り入れながら集落のコミュニティ機能を補完できるよう活用していきます。
② 道路情報表示板については、早急な修復を県に要請しています。



あねたい はるじ 姉帯春治 議員

問 カラマツ集成材の利用見通しは
答 需要拡大傾向、今後に期待



議員 町の基幹産業である林業振興について

- ① 森林整備地域活動支援交付金事業により、森林整備が進んでいると思うが伐採面積は。
② カラマツ集成材利用実績と今後の見通しは。
③ 森林整備造林補助事業が推進されているが、造林実績は。

町長

森林を育成していくためには、森林所有者が保育や間伐などの必要性を十分理解し、積極的に森林整備に取り組める環境づくりが、肝要と考えています。
① 利用期に達した樹木を伐採する主伐が、20年度は32件126畝、21年度は2月15日現在で38件146畝の実績で、年間では30件程度、面積で150畝前後の主伐が行われています。

町内では「もく・木ドーム」をはじめ、畜舎・堆肥舎のほか一般住宅でも利用されています。今年度整備の「農業体験交流施設」の構造材にも使用しています。

また、埼玉県の住宅建設業者が、カラマツ集成材を使用しているなど、需要は拡大傾向にあり、今後に期待しています。
③ 19年度が50件39畝、20年度が54件55畝、21年度が47件52畝となっています。
最近の伐採後における再造林率は、概ね40割から50割となつていますが、今後とも再造林率の向



各種イベントが開催されるカラマツ集成材を多く使ったもく・木ドーム

上と適切な保育・間伐の促進を図り、持続可能な循環型林業を確立するため取り組んでいきます。

問 教員・町営住宅の入居状況と管理は

教育委員会が管理する教員住宅と町営住宅の入居状況と維持管理は。

答 長期継続して入居良好な管理と認識

教員住宅は、5小学校、3中学校で39戸あり、そのうち教職員の入居利用は18戸(46・2割)で、一般入居が6戸あり、合計24戸(61・5割)が入居利用されており、毎年相応の修繕をしながら、維持管理しています。
町営住宅は4団地54棟66戸を管理しており、65戸に入居しています。小屋瀬住宅5戸以外は、全て水洗化しており、居住性及び利便性に配慮した住宅環境となっています。